

インターバンクの声（2015年11月17日）

週末のパリ同時多発テロの影響が心配された金融市場だったが、アジア市場後に開かれたロンドン市場やニューヨーク市場でもリスク回避姿勢が前面に出ることはなく、冷静に受け止めているように見えた。どこまでが真実なのかは分からないが、世界的に認知されていないような組織がテロなどによって社会不安を煽り、動揺した金融市場がリスク回避によって動くような意図的な相場変動を作り出すことによって不正な収益を揚げているといった噂もあり、その面でも昨日の市場の反応が冷静だったのは良かった。さすがにテロが起きたのがパリだったこともあり、ユーロは今年春の安値に迫るような軟調な動きになってしまっているが、株価も底堅く欧米の債券利回りも週末から大きな変化もなく動いていることから、このままの状態が続けば、市場も再び主要国の金融政策の行方に目が向くようになりそうだ。ただ、次のテロの標的が米ワシントンになっているといった不安な情報も飛び交っており、何とか未然に阻止できることを願うばかりだ。トレーディングに集中しにくい環境ではあるが、米国の12月の利上げの確率が増して来ている中で、気が付けばドル円が124円台になっているような流れに乗り遅れることだけは避けたい。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。